

J P S  
北九州

報 協 会  
日 本 郵 趣 協 会  
北 九 州 支 部  
平 成 30 年 8 月 11 日  
第 341 号

新 昭 和

第 一 次  
タイプ I

数字は、銘版寸法/銘版印面間/中央ガッター寸法  
銘版 22.2mm ガッター 2.8mm の時は省略

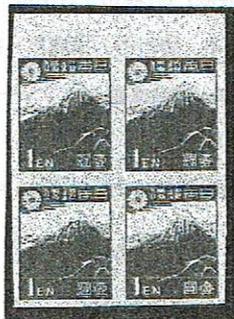
日本国短銘版  
灰白紙・炭透し



2.5mm/2.6mm 青



2.6mm/ 青

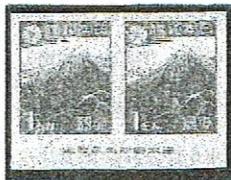


II版青に近い青

薄い青



3.6mm/2.6mm



2.6mm/2.7mm

提 供 : 橋 本 たねひろ 氏

## 第一次新昭和切手1円の収集

橋本たねひろ

新昭和切手1円「北斎の富士」は、書留料金用切手として昭和21年8月1日濃い青色で発行されたが、消印が読めないため10月には通達により薄い青に改色され、同時に富士山の稲妻模様の切れ込みがあるタイプⅠから切れ込みがないタイプⅡに変更された。

8月の時点では銘版が右書「日本国印刷局製造」であったが、10月の時点では右書「印刷局製造」に改められたため、原則的にはタイプⅠが前者でタイプⅡが後者となっている。

さくら日本切手カタログでは、タイプⅠの青色が昭和透かし、同狭透かしの2種であり、タイプⅡの薄い青には狭透かしがないので1種となっており、タイプ別にそれぞれメインナンバーが与えられているが、青色が用紙別では白紙昭和透かし、灰白紙昭和透かし、灰白紙狭透かしの3種があり、薄い青も白紙と灰白紙があるため、この5種が基本的な収集となろう。

タイプⅠの青色といっても、濃い青、暗い青、青と幅が広く明瞭に異なるので、色違いを加味すると面白いし、上記の原則に反し少数薄い青が存在することも悩ましい。

また、タイプⅡにも上記原則に反しタイプⅠの青に近い色があるので、収集が難しいが、単片でも区別できるものは収集したい。

昭和22年11月1日切手趣味週間小型シートが発行されたが、これはタイプⅠであり、第一次新昭和タイプⅠと誤認しないよう注意が必要である。

使用済み収集では、書留や速達などでかなり使用されているため苦労はしないが、青色で見にくい消印なので収集に苦労するはずである。